

# 百日咳の感染から守るために 予防接種を受けましょう



監修：岡田 賢司 先生 (福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 教授)

## 百日咳患者の発生状況

- 0歳児の百日せき含有ワクチン未接種児および7歳をピークとした5~15歳の子どもたち、また40歳代の成人に患者が多く認められています。
- 6か月未満児への感染源は、兄姉がもつとも多く、次いで両親、祖父母でした。
- また、2000年以降、年長児・青年・成人患者の報告数が増加し、これらの年齢層の患者が、重篤化しやすい乳児への感染源にもなっています。

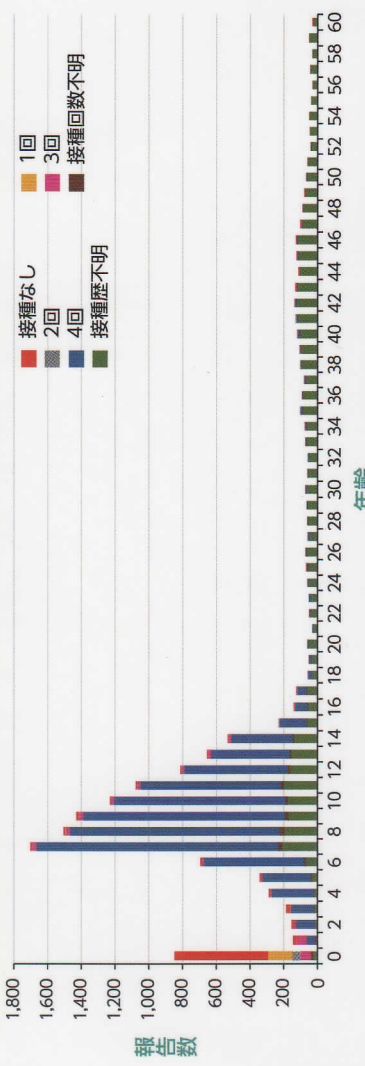
## 6か月未満児の感染源 (重複あり)

| 推定感染経路 | 患者数 (重複あり) | %  |
|--------|------------|----|
| 母親     | 109        | 14 |
| 父親     | 145        | 19 |
| 兄姉     | 294        | 38 |
| 祖父母    | 45         | 6  |
| 家族内その他 | 27         | 4  |

乳児の百日咳患者の約70%は、**母親、父親、兄姉**などの家族が感染源となっています。

感染源その他の内訳：いとこ(10)、おば(7)、おじ(7)、甥または姪(3)  
上記以外：家庭内不明(151(20%)、その他(71%)、不明(136(18%))  
国立感染症研究所 2019年報告から第52週\*までにNESIDに報告された百日咳患者のまとめ (n=771)  
(2019年第52週週報データ集計時点) \*第1週~第52週(2018年12月31日~2019年12月29日)  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis-200306.pdf>

## 百日咳症例の年齢分布と予防接種歴 (2019年第1週~第52週) (n=15,974\*)



\*百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン(初版)に則った症例に限定  
国立感染症研究所 感染症疫学センター・同国産院二部：全約報告サーベイランスによる国内の百日咳報告患者の疫学(更新情報)  
- 2019年疫学週報1週~52週 - 2020年1月8日現在(掲載日:2020年3月6日)より抜粋  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/pertussis-idwrs/9463-pertussis-20200306.html>

## 百日咳とは

百日咳菌によって起こる急性の気道感染症です。百日せき含有ワクチン未接種の乳幼児や接種後年数が経過し、免疫が減衰した人が感染すると、風邪のような症状で始まり、息が吸えないくらいひどい咳が続く病状です。熱はそれほど出ません。しかし、新生児・乳児期では、咳で呼吸ができず、けいれんを起こすことがあります。また肺炎や脳症などの命にかかわる重い合併症を起こすこともあります。

## 百日せき含有ワクチンの接種スケジュール

### 乳幼児期(0~1歳)

0歳時に3回の接種で免疫を獲得し、1歳時に1回の追加接種を行います。

### 就学前(5~6歳)

5~6歳の間に任意接種として、2回目の追加接種を行うことが推奨されています。

### 小学生高学年(11~12歳)

11~12歳の間に任意接種として、3回目\*の追加接種を行うことが推奨されています。

\*百日咳の予防を目的に、定期接種である二種混合ワクチン(DT)の代わりに三種混合ワクチンを接種することができます。



参考：日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール(2020年1月改訂版)  
[http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine\\_schedule.pdf](http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine_schedule.pdf)